

# 市民のひろば

## 峯樹木園の冬虫夏草が優秀賞受賞 第12回くまもと食品科学研究会大賞

11月5日、熊本市で第12回くまもと食品科学研究会大賞表彰式が開催され、本市の(株)峯樹木園(代表 峯隆吉さん)の健康補助食品「峯王(冬虫夏草)」が新商品・新技術の部で優秀賞を受賞しました。

峯樹木園では、独自の無菌養蚕システムで飼育した無菌カイコを使って冬虫夏草を生産しています。峯王は、質の高い冬虫夏草成分を含んだ商品の完成が評価され、健康補助食品としては初の受賞となりました。



峯さんは地域に根ざした商品開発に取り組んでいます

## 見事3大会連続優勝 全国障害者スポーツ大会卓球の部

10月24・25日、第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」に県代表として松原律子さん(泉ヶ丘)が出演し、卓球女子の部で優勝しました。

松原さんは3年連続でこの大会に出場し、見事3連覇という偉業を成し遂げました。11月30日に市役所を訪問した松原さん。「60歳から始めた卓球を元気でいる限り続け、次回の大会でも優勝できるようこれからも頑張ります」と力強く話しました。



左から生涯学習課長、松原さん、副市長

## 地域のスポーツ振興に貢献 全国スポーツ推進委員功労者表彰

11月12・13日に愛媛県で行なわれた第56回全国スポーツ推進委員研究協議会で、市スポーツ推進委員の河津野利夫さん(群)が、全国スポーツ推進委員功労者表彰を受賞しました。

河津さんは、昭和63年から現在に至るまで地域のスポーツ振興に尽力。現在もスポーツ推進委員会会長として活躍中です。今回の表彰は、長年の活動と功績が認められての受賞となりました。



左から市長、河津さん、生涯学習課長

## ニュースポーツで活躍 スポーツ吹矢九州大会で上位入賞

11月8日、佐賀県で日本スポーツ吹矢協会 第7回九州・沖縄大会が開催され、同協会合志支部で活動するメンバーが見事上位に入賞しました。

なお、合志支部では92歳で支部最高齢の大森節子さん(上須屋)も練習に参加しています。

個人10m 男子 優勝 合志 明公さん(上庄)  
女子 優勝 塚本小百合さん(みずき台)  
個人8m 男子 3位 大沢 民生さん(菊陽町)  
基本動作 奨励賞 川畑 延洋さん(菊陽町)

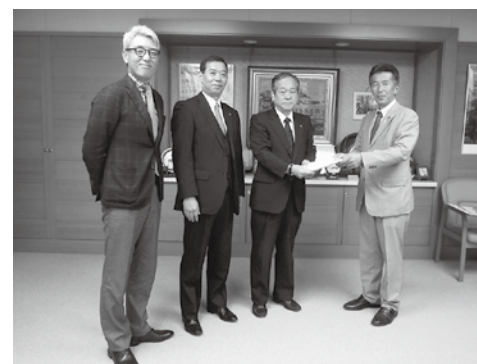


前列左から合志さん、大森さん、塚本さん、後列左から川畑さん、大沢さん

## 市町村合併の検証と市の将来に向けて 市と市議会が連名で県へ要望書を提出

11月26日、市制施行10年を機に、市長が吉永議長、坂本副議長とともに、県に対して要望書を提出しました。

要望内容は、新市づくりを進める指針として策定した「新市建設計画」の実現に向けて、北熊本スマートインターチェンジの建設など、同計画に掲げる施策の積極的な推進と、来年度に市が設置を予定する市町村合併を検証する協議会への参画を県に求めるものです。要望書は村田副知事が受理しました。



村田副知事に要望書を渡す吉永市議会議長

## 市連携協定機関担当国会議で 連携協定機関が市の現状と課題の意見交換

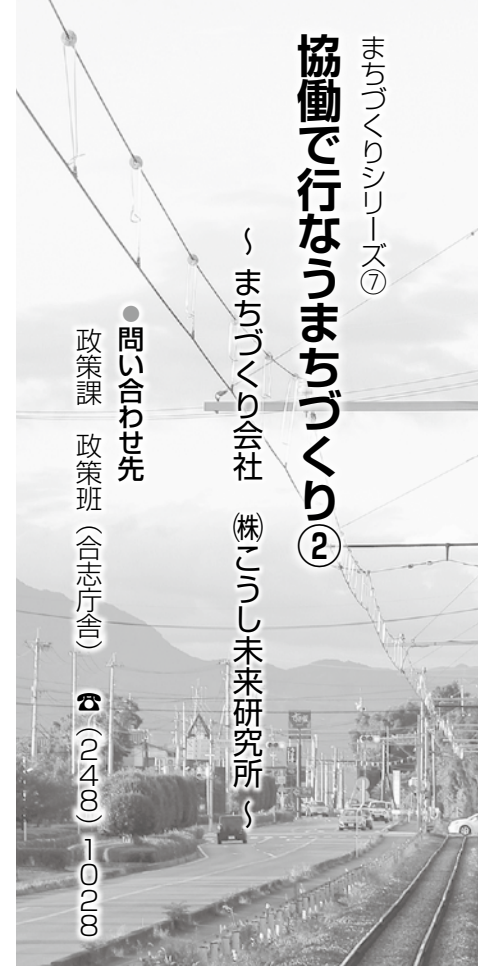
11月25日、ひのくにふれあいセンターで、本市と連携協定を結ぶ大学、企業など28団体の担当者、本市の各部門担当者による連携会議を開催しました。(会議日時点で37の大学・企業などと31件の協定を締結しています)

会議では、市の現状や課題の説明、各団体の取り組みの紹介および連携団体と市の各部門の担当職員を交えた意見交換を行いました。今後はさらに連携協定団体との協力体制を構築していきます。



連携協定団体の取り組みを紹介

## 協働で行なうまちづくり



### まちづくり会社って何?

市は、「市民の健康」と「財政の健康」を柱とする「健康都市こうし」を目指しています。中でも財政の健康では、稼げる合志市として税収を増やすための施策に力を入れています。

まちづくり会社「(株)こうし未来研究所」は、市と企業、大学など11団体が連携し、平成27年4月に設立しました。稼げる市をつくるため、地域の良好な環境や価値の向上、開発などに取り組み、公民連携により市が抱える課題の解決を目指す会社です。

将来の人口減少を見据え、本市の地域特性を踏まえて、豊かな自然環境を保全しつつ、都市機能を配置し、健康をキーワードに誘致する企業の業種、市民のニーズを聴き、整理して計画・立案するなど、まちづくりを具体的に検討し、実施するのが目的です。

### どんなことをしているの?

- ① まちの活性化のため、地域の活用方法の検討や地権者・企業など関係者との開発交渉、企業などの誘致
- ② 市が保有する建物や土地、その他の資産などを管理・運営、または有効活用するための検討や計画・調整
- ③ 適切な管理が行なわれていない空き家の有効活用

この他にも、国・県からの補助金活用やまちづくりの団体として関わることでできる事業であれば幅広く手掛けていきます。

現在は人口が増え続けている本市も、近い将来、人口減少と高齢社会の到来が予想されます。その時が来てからでは遅すぎるため、体力がある今だからこそ準備をしておく必要があります。(株)こうし未来研究所が、市とともにまちづくりの方向性と将来の市の基礎を担っていくことを市も期待しているところです。